

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2297400091		
法人名	社会福祉法人 大須賀苑		
事業所名	グループホーム野楽里 (東の里)		
所在地	静岡県掛川市大淵12680-1		
自己評価作成日	令和5年 10月16日	評価結果市町村受理日	令和6年1月31日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaisokensaku.mhiw.go.jp/22/index.php?action_kouhyou_detai_2021_022_kani=true&li_gvosyoCd=2297400091-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室
所在地	静岡市葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A
訪問調査日	令和5年 10月23日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

町中から離れていて自然豊か。直ぐ傍に池があり、白鷺、亀がいる。牛カエルの声もよく聞こえる。桜の木もあり車も来ないので安全な散歩コースである。フロアのテラスからは、朝日や夕日が入り1日の経過を感じられる。テラスで共同作業で野菜や花を植えている。平屋建てでユニット間の交流がいつでも自由にできる。レク活動では交流する機会も兼ね、月1回ボーリングや体操レク、お茶会などを考え非日常の時間を作っている。レクで隠れた意欲を引き出せることにも繋がる。また、脳トレの個人活動として、計算・カード合わせ・ドミノ・裁縫を行ったり、食事作りの役割もある。一人一人の過ごし方を大切にしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設7年目を迎え重度化が顕著になり、看取りケアも避けられない現実となっています。実績も少ないことから職員の不安や心構えに課題はあるものの、「住み慣れた処で最期まで」という家族の願いから事業所でできることに誠心誠意取り組み、一名を見送りました。看護師のアドバイスをもとに普段通りの生活で共に過ごし、食事は摂れなくても大好きな無花果や柿を「美味しい」と言って口にした姿は深く職員の心に刻まれています。寝込むことも苦しむこともなく、人生の幕を閉じるその瞬間に立ち会った重みを受け止め、職員は今日を生きる利用者の「その人らしさ」を改めて考え、真摯に向き合っています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ロッカーに理念を張り出すことで目に留まり、振り返る機会がある。ほぼ職員理解して取り組んでいる。自宅に掲示して意識している職員もいる。年度末に職員会議でも配布し再確認する機会がある。	一人ひとりの生活リズムを掴み、「ここで関わればスムーズにいく」という根拠をもった支援で穏やか暮らしが継続されています。センター方式の「暮らしぶりシート」には入居当初から向き合ってきた「その人らしさ」が幾重にも書き込まれ、介護計画にも位置づけています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	コロナ感染対策として外部との交流機会がなかった。状況により法人での対策を変更し、距離を取っての外部慰問等を受け入れていく予定である。	ハーモニカやオカリナ、手品といった多彩なボランティアとは、法人を通じいつでも訪問に応じてもらえる間柄で、「そろそろ訪問してもいいでしょうか」と連絡はあるものの、5類移行となっても感染者増のニュースに、コロナ禍以前の交流へ踏み出せない状況です。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	福祉に関する相談窓口を開設している。相談はない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	市内のコロナ感染者状況により、紙面開催や招集開催で行っている。家族は各フロアから、各1名に代表で参加していただいている。	市長寿推進課、地域包括支援センター職員、地区福祉委員、民生委員、家族代表2名をメンバーとし、感染者数の推移を見て参会しています。「事業所の認知度を上げるためにも地域委員の集まりに出向いて説明を」といった意見が寄せられ、事業所理解が深まっています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	コロナ対策や研修の情報などメールでやり取りが出来ている。また、運営推進会議にも出席してもらっている。	運営推進会議には毎回、市長寿推進課、地域包括支援センターの出席があり、運営指導における指摘事項もありません。事故報告書は速やかにメールで報告するとともに、ズームでおこなわれる研修で研鑽を積み、掛川市事業所連絡会での情報交換を運営に役立てています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3カ月に1回委員会を開催して指針の内容を検討している。動きにより転倒などのリスクを考えスピーチロックになる時もある。また、帰宅願望が強くなっている方がいて、対応しきれない時は一時的に正面玄関の施錠をする時もある。	現在、例外三原則に係る拘束が必要な人はいません。3ヶ月ごとの委員会では毎回テーマを定めて振り返り、現状から抽出された課題を検討しています。施錠やセンサーマットの使用が行動制限に直結しないよう、あくまでも一時的な方策として、安易に頼る意識を排除しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	3カ月に1回虐待防止委員会を開催し確認をしている。声掛けの仕方でも適切ではないか思った時に上司に報告している。また、原因不明の内出血があると、「何故」を検討して意識して動きを見るようにしている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、利用している人はいない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	身元引受人に説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	1年に1回、満足度調査を実施している。また、ホームページに意見を掲載している。	満足度調査は9割以上と回収率も高く、「満足」と「ほぼ満足」で占められています。レクリエーション活動の様子を写真で知らせる「野楽里通信」は毎月、担当職員が健康状態などを伝えるお手紙を3ヶ月に一度送付し、家族からも「安心」の声があがっています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	上司と部下の面談が出来ていない。ユニット会議・合同会議でケアの見直しや業務の見直しを行っている。また、コロナ蔓延後に振り返りをした。	個人面談の時間を設けられていないことが課題ですが、管理者もシフトに入り、一緒に勤務する中で現場に直結した相談に応じています。会議では利用者の生活リズムに沿った業務フローの見直しに積極的な提案があり、風通しの良い風土が形成されています。	個人面談の機会が確保されることを期待いたします。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・就業時間の定期終了促進 ・厚生休暇で連続した休暇 ・誕生日休暇 ・個別目標提出し質の向上を図る 		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	認知症実践者研修に参加したが、コロナ感染したので中止となった。内部研修では、ガウンテクニック実技、ゾーニングは紙面上で行った。事故対策研修では事故件数を振り返り、未然に防ぐ意識を高く持ってもらった。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	Zoom開催で、掛川市事業所連絡会に参加している。地域密着の部会もその時にあり参加した。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	アセスメントで出来るだけ多くの情報を得て、傾聴をして、何でも話させる関係になるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の気持ちに寄り添い関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族の意向をうかがいながら検討している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	同じ人間として、日々の暮らしを共にし、助け合いながら関係を築いていると思う。どの職員も目上の人という意識は忘れないようにしていると思う。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	かかりつけ医受診は基本家族に依頼している。なかなか家族と会う機会がない方は物品届け時に、距離を置いて会ってもらったりしている。また、「野楽里通信」をほぼ毎月、お手紙を担当職員より3カ月に1回程度で郵送している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ感染対策として面会制限・外出制限があったが、併設事業所利用者様が、入居者とご近所であったので、利用時には面会する場面を設けた。	面会は予約制、人数制限はなく地域交流ホールで15分としています。「持ち込んではいけない」という意識もありコロナ禍を経て面会は減っていますが、月に一度、馴染みの主治医への受診には家族が付き添っています。また、家族の送迎で行きつけの美容院へ通う人もいます。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	自分から声をかける方、物静かで職員以外にはほぼ話しかけない方、自分一人では動けない方や、そりが合わない方等、個々の状態を把握して誘導して話せる環境を作ったり、仲介に入り対応している。家族の面会はコロナ対策もあり減っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後は関わりを持つことはないが、別の施設に移動し永眠された後、ご家族が挨拶に来てくれ「ここに入れてもらって助かりました」等と話して下さり、職員の励みとなっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	出来る限り本人の想いを尊重しながら寄り添ったケアに努めている。個人の生活リズムを大切にしている。	新聞を読むことが日課となっている人は、新聞受けまで取りに行く過程が運動の一環となっていたり、朝はゆっくり起きたい人のために食事時間を調整したりなど、入居前に家族に記入してもらった「暮らしの情報」シートから得た生活リズムが活きています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にセンター方式の「暮らしぶりシート」を記入してきてもらい活用している。また、家族からの聞き取りや他職員からの情報を聞き、情報を増やし「その人」の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	記録に残し情報共有している。心身状態が不安定で対応困難な時はケース検討会を開催することもある。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	6か月に1回モニタリングをしてプラン見直しを行っている。更新時期や状況変化あった時は担当者会議を行っている。コロナ感染症流行期には、電話にて開催した。担当者会議の内容は回覧をして共有を図った。	帰宅願望が強い利用者のサービス内容に示された「気分転換できるように時間をかけて寄り添う」「訴えを傾聴し、共感する」「家族に電話をしてもらう」といったケアが確実に履行されていることは詳細な記録から確認でき、介護計画の浸透がうかがえます。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケア記録に記載し情報共有できるようにしている。連絡ノートもあり活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	往診を活用している方が増えてきている。他の活用はない。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ感染症対策として、出かける機会が少ないが、「中新井池」の散歩、職員と地元の神社への花見ドライブに出かける事が出来ている。気分転換が出来るよう、状況見ながら遠足も検討している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本、個々のかかりつけ医への受診を継続してもらっている。状態を文書に報告し連携を取っている。家族の状態により同行する場合もある。ADL低下した方は往診対応に切り替えている。24時間対応の往診だと職員の安心にも繋がっている。	家族による受診支援で全員がかかりつけ医を継続し、車の乗降に難があれば職員が送迎対応しています。重度化に際しては在宅専門医へ切り替え、月2回の訪問診療にはユニット職員が立ち会ってケア記録に結果を入力し、その日のうちに家族へ報告しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設事業所看護師に必要に応じて相談したり、緊急時は対応してもらっている。病院への付き添いを依頼することもあった。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	情報提供書やサマリーを活用している。面会制限もある為、情報が入りにくいので必要に応じて電話をして、情報共有している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	必要に応じて確認を行っている。在籍年数が長いと「住み慣れたところ」と当施設を希望されている方もいるが、出来る事を説明したうえで家族に納得してもらい、話を進めている。「当施設で対応できるか」を職員から聞き取りする場合もある。	「ここで最期まで」という家族の願いから、事業所でできることに誠心誠意取り組み、一名を見送っています。往診に切替え、看護師の助言をもとに普段通りの生活で共に過ごし、食事は摂れなくても大好きな無花果や柿を「美味しい」と喜んだ姿は深く職員の胸に刻まれています。	看取りにあっても「その人らしさ」への振り返りがおこなわれ、必要な知識を身につけるための研鑽を期待いたします。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルがある。事故発生・急変時の勉強会はできていないが、感染対策研修としてガウンテクニックの仕方を実施した。コロナ陽性者が出た場合のゾーン分けについて机上にて実施している。実際コロナ蔓延した時状態変化を見逃さないよう意識し共有した。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	・法人の災害マニュアルがある。年間計画に基づき訓練を行っている。地域の方にも年1回、訓練時の協力依頼をしている。当施設での経験年数が短い職員もいるので、マニュアルの伝達等の勉強会の必要性を感じる。3年度には、消防署による搬送訓練等を実施した。	社会福祉施設防災の日の訓練には毎年地域代表2～3名が見学を訪れ、協力関係の構築とともに親身な助言ももらえています。立地条件による災害の影響もなく、消防署職員からのアドバイスや煙体験、事業継続計画の策定など、防災への万全な備えを講じています。	事業継続計画の周知と運用、見直しが計画的に進められることを期待いたします。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々に合わせて声掛けの工夫をしている。不穏になっている時は、距離間を考えながら対応している。言葉がけ一つで、不穏に繋がると感じている。	「尊厳あるケアの実施」として身体拘束適正化検討委員会で毎回テーマに取り上げています。「忙しい時に片手間で返事をしてしまう」「傾聴と共感が受け流しでなくその時・その状況に合っているか」「どこまで伝え、どう対応するか」など職員間での情報共有の大切さも学んでいます。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	・選択肢のある声掛けをしている。 ・傾聴・共感・受容に心掛け想いを口に出せるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の想いを傾聴し、体制を考慮し出来る範囲で希望に添えるようにして満足に繋がるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	全員が意識している。着替え時、服を選んでもらっている。鏡を見ることで自分の襟を直したり、髪を整えたりするので、その場面も大切にしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事作り・盛り付け・片付け等、個々の状態に合わせて参加してもらっている。上手に出来ないこともあるが、「やるよ」「手伝うよ」という気持ちを大切に、一緒に行っている。誕生日の方には希望メニューを選択してもらっている。	副食を盛り付ける、味噌汁をよそう、テーブルを拭く、など男性もできる役割を受け持って食事の準備に関わり、梅ジュースや干し柿作り、ペランダでできるさつま芋の袋栽培にも挑戦し、収穫の喜びを得ています。誕生日には手作りケーキでお祝いをしています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は記録に残して情報共有し、それを見ながら補食が必要か、今の食事形態で良いか等を検討し支援している。水分量も情報共有し、脱水にならないよう支援している。毎月体重測定している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声掛け誘導介助を実施している。無理強いのないよう配慮している。食前の口腔体操を実施している。パタカラ体操は入居者様にも、なじみの体操となっている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し誘導を行い、トイレでの排泄に心掛けている。一人一人に合ったパットを使用している。徐々にADL低下もあり紙パンツに切りかえ誘導・介助の方が増えてきている。	失敗が不穏につながる利用者もいるため、排泄リズムを把握した声かけで快適な日常が守られています。ADL低下があってもできる限り日中はトイレでの排泄とし、職員2名で介助する人や、夜間はポータブルトイレを置くことで安眠できている人もいます。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	起床時の牛乳の提供、毎朝麦ご飯、水分の勧め、ウォシュレットの刺激、体操参加声掛け、下剤使用でコントロール等の方法で取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	希望に添えるようにした入り、無理強いのないよう声掛けの工夫をして週2回は必ず入浴できるようにしている。しょうぶ湯の提供もした。夜、身体を拭きたい希望の方には、洗面器にお湯を入れ渡し、居室で拭いてもらっている。	曜日は定めず週2日を基本としていますが、汗をかいたり皮膚トラブルの予防には適宜対応しています。シャンプーはそれぞれ好みの物を用意してもらい、菖蒲湯や柚子湯など季節の変わり湯といった楽しみもあります。拒否の強い人には無理強いつけず信頼関係を優先しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の静養時間は、個々に合わせ本人の声・状態など見ながら対応している。就寝に関しても同様である。眠剤を使用する方もいる。夜間眠れない時はフロアで一緒に過ごしてもらうこともある。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報をファイルし共有できるようにしている。受診後の処方変化にも意識している。また、往診利用者家族にも結果を連絡している。飲み忘れがある時などは、報告書に上げ原因を考え少しでも減らせるように努力している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人のルーティン・役割を把握してレク活動や家事活動参加を促している。嗜好品も、食欲のない時は特に活用し提供している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ感染対策で外出は、受診以外はなじみの場所などに出かける事は中止としていた。職員とのお花見ドライブ・建物周辺の屋外散歩はできている。	感染症予防策として出かける機会は少ないものの、外に出たい気持ちに沿った散歩が支援されています。また、人混みを避け少人数でのドライブは慣行し、地元の神社や吉岡彌生記念館へのお花見、秋の遠足では御前崎なぶら市場まで足を伸ばして海の幸を堪能しました。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	コロナ感染対策で、本人が買い物に出る事は中止している。家族もしくは職員のみでの購入となっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・できるだけ希望に添えるよう心掛け、満足してもらおうようにしている。また、家族に定期的に電話をしてもらい不安が軽減できるようにしている。家族も声を聴くことで心身の状態把握が出来るかと思う。担当職員が電話や手紙で情報共有している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・エアコン使用時は洋服の調整。 ・フロアに散歩で見つけた花を飾る。 ・プランターに野菜や花を栽培しテラスに置く。 ・季節に合わせた装飾、フロアから夕焼けが見える、廊下では、中秋の名月も見える。	桜やタンポポ、金木犀など折々の花をテーブルに飾って四季を知らせ、園芸業者によって整備された樹々の緑が、ユニットの大きな掃き出し窓に清々しく映えます。今夏経験した感染症の蔓延を活かすべく、手指衛生やマスク着用、日常の清掃といった標準予防策を徹底しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食席は基本自由だが、相性などを考慮している。廊下に長椅子を置いてあり、外を眺めたり新聞を読んだり、個々により活用の仕方がさまざまである。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	TV・チェスト等、使い慣れた物を持ち込み可としている。一人一人の住まいを大切にADLに合わせ適宜配置換えをし、転倒リスクの軽減に努めている。	契約時には何でも持ち込めることを説明し、なかでもご飯茶碗や汁椀、湯飲み、マグカップは必ず持参してもらって、居場所作りの原点としています。歩行に不安がある人にはベッドの位置をドアに寄せ、家具や椅子を伝って移動できるよう配置を工夫した居室もあります。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリー、歩行経路にもものを置かないよう配慮している。フロア内外を自由に行動できるようにしている。フロア外に行った時は職員間共有している。毎日の日課で、新聞を廊下まで取りに行く利用者もいる。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2297400091		
法人名	社会福祉法人 大須賀苑		
事業所名	グループホーム野楽里 (西の里)		
所在地	静岡県掛川市大淵12680-1		
自己評価作成日	令和5年 10月16日	評価結果市町村受理日	令和6年1月31日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaisokensaku.nhiw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detai_2021_022_kanietru&ijvgyoCd=2297400091-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室
所在地	静岡市葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A
訪問調査日	令和5年 10月23日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

町中から離れていて自然豊か。直ぐ傍に池があり、白鷺、亀がいる。牛カエルの声もよく聞こえる。桜の木もあり車も来ないので安全な散歩コースである。フロアのテラスからは、朝日や夕日が入り1日の経過を感じられる。テラスで共同作業で野菜や花を植えている。平屋建てでユニット間の交流がいつでも自由に行える。レク活動では交流する機会も兼ね、月1回ボーリングや体操レク、お茶会などを考え非日常の時間を作っている。レクで隠れた意欲を引き出せることにも繋がる。また、脳トレの個人活動として、計算・カード合わせ・ドミノ・裁縫を行ったり、食事作りの役割もある。一人一人の過ごし方を大切にしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設7年目を迎え重度化が顕著になり、看取りケアも避けられない現実となっています。実績も少ないことから職員の不安や心構えに課題はあるものの、「住み慣れた処で最期まで」という家族の願いから事業所でできることに誠心誠意取り組み、一名を見送りました。看護師のアドバイスをもとに普段通りの生活で共に過ごし、食事は摂れなくても大好きな無花果や柿を「美味しい」と言って口にした姿は深く職員の心に刻まれています。寝込むことも苦しむこともなく、人生の幕を閉じるその瞬間に立ち会った重みを受け止め、職員は今日を生きる利用者の「その人らしさ」を改めて考え、真摯に向き合っています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ロッカーに理念を張り出すことで目に留まり、振り返る機会がある。ほぼ職員理解して取り組んでいる。自宅に掲示して意識している職員もいる。年度末に職員会議でも配布し再確認する機会がある。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	コロナ感染対策として外部との交流機会がなかった。状況により法人での対策を変更し、距離を取っての外部慰問等を受け入れていく予定である。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	福祉に関する相談窓口を開設している。相談はない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	市内のコロナ感染者状況により、紙面開催や招集開催で行っている。家族は各フロアから、各1名に代表で参加していただいている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	コロナ対策や研修の情報などメールでやり取りが来ている。また、運営推進会議にも出席してもらっている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3カ月に1回委員会を開催して指針の内容を検討している。動きにより転倒などのリスクを考えスピーチロックになる時もある。また、帰宅願望が強くなっている方がいて、対応しきれない時は一時的に正面玄関の施錠をする時もある。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	3カ月に1回虐待防止委員会を開催し確認をしている。声掛けの仕方でも適切ではないか思った時に上司に報告している。また、原因不明の内出血があると、「何故」を検討して意識して動きを見るようにしている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、利用している人はいない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	身元引受人に説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	1年に1回、満足度調査を実施している。また、ホームページに意見を掲載している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	上司と部下の面談が出来ていない。 ユニット会議・合同会議でケアの見直しや業務の見直しを行っている。また、コロナ蔓延後に振り返りをした。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	・就業時間の定期終了促進 ・厚生休暇で連続した休暇 ・誕生日休暇 ・個別目標提出し質の向上を図る		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	認知症実践者研修に参加したが、コロナ感染したので中止となった。 内部研修では、ガウンテクニック実技、ゾーニングは紙面上で行った。事故対策研修では事故件数を振り返り、未然に防ぐ意識を高く持ってもらった。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	Zoom開催で、掛川市事業所連絡会に参加している。地域密着の部会もその時にあり参加した。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	アセスメントで出来るだけ多くの情報を得て、傾聴をして、何でも話させる関係になるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の気持ちに寄り添い関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族の意向をうかがいながら検討している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	同じ人間として、日々の暮らしを共にし、助け合いながら関係を築いていると思う。どの職員も目上の人という意識は忘れないようにしていると思う。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	かかりつけ医受診は基本家族に依頼している。なかなか家族と会う機会がない方は物品届け時に、距離を置いて会ってもらったりしている。また、「野楽里通信」をほぼ毎月、お手紙を担当職員より3カ月に1回程度で郵送している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ感染対策として面会制限・外出制限があったが、併設事業所利用者様が、入居者とご近所であったので、利用時には面会する場面を設けた。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	自分から声をかける方、物静かで職員以外にはほぼ話しかけない方、自分一人では動けない方や、そりが合わない方等、個々の状態を把握して誘導して話せる環境を作ったり、仲介に入り対応している。家族の面会はコロナ対策もあり減っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後は関わりを持つことはないが、別の施設に移動し永眠された後、ご家族が挨拶に来てくれ「ここに入れてもらって助かりました」等と話して下さり、職員の励みとなっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	出来る限り本人の想いを尊重しながら寄り添ったケアに努めている。個人の生活リズムを大切にしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にセンター方式の「暮らしぶりシート」を記入してきてもらい活用している。また、家族からの聞き取りや他職員からの情報を聞き、情報を増やし「その人」の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	記録に残し情報共有している。心身状態が不安定で対応困難な時はケース検討会を開催することもある。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	6か月に1回モニタリングをしてプラン見直しを行っている。更新時期や状況変化あった時は担当者会議を行っている。コロナ感染症流行期には、電話にて開催した。担当者会議の内容は回覧をして共有を図った。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケア記録に記載し情報共有できるようにしている。連絡ノートもあり活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	往診を活用している方が増えてきている。他の活用はない。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ感染症対策として、出かける機会が少ないが、「中新井池」の散歩、職員と地元の神社への花見ドライブに出かける事が出来ている。気分転換が出来るよう、状況見ながら遠足も検討している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本、個々のかかりつけ医への受診を継続してもらっている。状態を文書に報告し連携を取っている。家族の状態により同行する場合もある。ADL低下した方は往診対応に切り替えている。24時間対応の往診だと職員の安心にも繋がっている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設事業所看護師に必要に応じて相談したり、緊急時は対応してもらっている。病院への付き添いを依頼することもあった。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	情報提供書やサマリーを活用している。面会制限もある為、情報が入りにくいので必要に応じて電話をして、情報共有している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	必要に応じて確認を行っている。在籍年数が長いと「住み慣れたところで」と当施設を希望されている方もいるが、出来る事を説明したうえで家族に納得してもらい、話を進めている。「当施設で対応できるか」を職員から聞き取りする場合もある。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルがある。事故発生・急変時の勉強会はできていないが、感染対策研修としてガウンテクニックの仕方を実施した。コロナ陽性者が出た場合のゾーン分けについて机上にて実施している。実際コロナ蔓延した時状態変化を見過ごさないよう意識し共有した。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	・法人の災害マニュアルがある。年間計画に基づき訓練を行っている。地域の方にも年1回、訓練時の協力依頼をしている。当施設での経験年数が短い職員もいるので、マニュアルの伝達等の勉強会の必要性を感じる。3年度には、消防署による搬送訓練等を実施した。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々に合わせて声掛けの工夫をしている。不穏になっている時は、距離間を考えながら対応している。言葉がけ一つで、不穏に繋がると感じている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	・選択肢のある声掛けをしている。 ・傾聴・共感・受容に心掛け想いを口に出せるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の想いを傾聴し、体制を考慮し出来る範囲で希望に添えるようにして満足に繋がるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	全員が意識している。着替え時、服を選んでもらっている。鏡を見ることで自分の襟を直したり、髪を整えたりするので、その場面も大切にしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事作り・盛り付け・片付け等、個々の状態に合わせて参加してもらっている。上手に出来ないこともあるが、「やるよ」「手伝うよ」という気持ちを大切に、一緒に行っている。誕生日の方には希望メニューを選択してもらっている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は記録に残して情報共有し、それを見ながら補食が必要か、今の食事形態で良いか等を検討し支援している。水分量も情報共有し、脱水にならないよう支援している。毎月体重測定している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声掛け誘導介助を実施している。無理強いのないよう配慮している。食前の口腔体操を実施している。パタカラ体操は入居者様にも、なじみの体操となっている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し誘導を行い、トイレでの排泄に心掛けている。一人一人に合ったパットを使用している。徐々にADL低下もあり紙パンツに切りかえ誘導・介助の方が増えてきている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	起床時の牛乳の提供、毎朝麦ご飯、水分の勧め、ウォシュレットの刺激、体操参加声掛け、下剤使用でコントロール等の方法で取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	希望に添えるようにした入り、無理強いのないよう声掛けの工夫をして週2回は必ず入浴できるようにしている。しょうぶ湯の提供もした。夜、身体を拭きたい希望の方には、洗面器にお湯を入れ渡し、居室で拭いてもらっている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の静養時間は、個々に合わせ本人の声・状態など見ながら対応している。就寝に関しても同様である。眠剤を使用する方もいる。夜間眠れない時はフロアで一緒に過ごしてもらうこともある。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報をファイルし共有できるようにしている。受診後の処方変化にも意識している。また、往診利用者家族にも結果を連絡している。飲み忘れがある時などは、報告書に上げ原因を考え少しでも減らせるように努力している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人のルーティン・役割を把握してレク活動や家事活動参加を促している。嗜好品も、食欲のない時は特に活用し提供している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	コロナ感染対策で外出は、受診以外はなじみの場所などに出かける事は中止としていた。職員とのお花見ドライブ・建物周辺の屋外散歩はできている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	コロナ感染対策で、本人が買い物に出る事は中止している。家族もしくは職員のみでの購入となっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・できるだけ希望に添えるよう心掛け、満足してもらおうようにしている。また、家族に定期的に電話をしてもらい不安が軽減できるようにしている。家族も声を聴くことで心身の状態把握が出来るかと思う。担当職員が電話や手紙で情報共有している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・エアコン使用時は洋服の調整。 ・フロアに散歩で見つけた花を飾る。 ・プランターに野菜や花を栽培しテラスに置く。 ・季節に合わせた装飾、フロアから夕焼けが見える、廊下では、中秋の名月も見える。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食席は基本自由だが、相性などを考慮している。廊下に長椅子を置いてあり、外を眺めたり新聞を読んだり、個々により活用の仕方がさまざまである。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	TV・チェスト等、使い慣れた物を持ち込み可としている。一人一人の住まいを大切にADLに合わせ適宜配置換えをし、転倒リスクの軽減に努めている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリー、歩行経路にものを置かないよう配慮している。フロア内外を自由に行動できるようにしている。フロア外に行った時は職員間共有している。毎日の日課で、新聞を廊下まで取りに行く利用者もいる。		